

## 1. 略歴

- 1989年4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
- 1991年4月 東京大学文学部国史学専修課程進学
- 1993年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業
- 1993年4月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻修士課程進学
- 1995年3月 東京大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻（日本史学）博士課程進学
- 1997年7月 同 博士課程（日本史学）中退
- 1997年8月 東京大学史料編纂所助手
- 2007年4月 東京大学史料編纂所助教
- 2009年1月 博士（文学）学位取得（東京大学）
- 2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本中世史

### b 研究課題

中世武家政権の研究、14世紀政治社会史の研究

### c 概要と自己評価

もっぱらモンゴル襲来を中心に鎌倉時代後半の外交・政治史研究に取り組んだ。また別に北条時頼政権について検討する機会を得たことにより、13世紀半ばから一貫する朝幕関係を見通す視座を得ることができた。今後は14世紀へと視野を拡大し、室町幕府成立期・南北朝期の政治史研究に進んでいきたいと考えている。また共同研究の一環として『平家物語』に取り組み、歴史学の立場から文学作品にアプローチする方法を模索した。さらに古記録から古文書の作成や授受を読み解くことで、古文書学の新たな一面を開拓することを試みた。

### d 主要業績

#### (1) 著書

編著、高橋典幸、『生活と文化の歴史学5 戦争と平和』、竹林舎、2014.10

編著、高橋典幸、『源平盛衰記年表』、三弥井書店、2015.7

#### (2) 論文

高橋典幸、「モンゴル襲来をめぐる外交交渉」、高橋典幸編『生活と文化の歴史学5 戦争と平和』（竹林舎）、221-244頁、2014.10

高橋典幸、「北条時頼とその時代」、村井章介編『東アジアのなかの建長寺』（勉誠出版）、59-72頁、2014.11

高橋典幸、「『山田聖栄自記』と平家物語」、松尾葦江編『文化現象としての源平盛衰記』（笠間書院）、608-619頁、2015.5

高橋典幸、「南北朝・室町期南九州の城郭」、齋藤真一編『城館と中世史料』（高志書院）、67-84頁、2015.9

高橋典幸、「藤原定家と「御教書」「奉書」」、『明月記研究』、14、86-97頁、2016.1

#### (3) 解説

高橋典幸、「『明月記歌道事』（文治四年四月～正治二年九月）を読む」（分担執筆）、『明月記研究』14、1-58頁、2016.1

#### (4) 啓蒙

高橋典幸、「足利尊氏が御家人を周防守に推薦した文書 「観応三年」年号から浮かび上がる尊氏の決意」、『歴史読本』905、218-221頁、2014.9

高橋典幸、「源平合戦観の克服」、歴史科学協議会編『歴史の「常識」をみなおす』（東京大学出版会）、70-73頁、2015.3

#### (5) 会議主催(チェア他)

国内、第112回史学会大会実行委員、日本史部会（中世史部会）司会、於東京大学、2014.11.8～2014.11.9

国内、第113回史学会大会実行委員、日本史部会（中世史部会）司会、於東京大学、2015.11.14～2014.11.15

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

東洋大学（文学部）非常勤講師「日本史学演習、日本史史料研究」、2014.4～2016.3

慶應義塾大学（法学部）非常勤講師「中世日本政治史Ⅰ・Ⅱ」、2014.4～2015.3

伊東市史編さん委員会専門委員、2014.5～

伊東市教育委員会講演「鎌倉幕府と伊豆・伊東」、2015.11

#### (2) 学会

国内、日本歴史学会評議員、2014.4～

国内、古文書学会理事・評議員、2014.4～

国内、史学会編集委員、2014.6～